

成果の概要

渉外部長 河野 忠男

【京都大学地域講演会の実施状況について】

「京都大学地域講演会」は、「京都大学教育研究振興財団」の後援を得て、京都大学が伝統的に蓄積して来た高度な学術や知的財産に加え、現在進行している教育・研究活動や新たな研究成果を全国の各地域に出向き紹介することを通じて、広く社会に還元するために開催しているものである。

愛媛講演会では、「生命とは何かー物質と細胞をつなぐ視点からー」をメインテーマとし、物質ー細胞統合システム拠点 中辻憲夫 拠点長より「多能性幹細胞 (ES/iPS 細胞) の限りない可能性」、原田慶恵 教授より「分子1個の動きを光学顕微鏡で見る」、上杉志成 教授より「細胞を操る化合物」と題した講演を行った。会場には高校生を始めとする若い人が目立ち、満員となる286名の市民の参加があり、盛会のうちに閉会した。

鹿児島講演会では、農学研究科の伏木亨 教授が「おいしさの科学 おいしさを数式で表す試み」と題した講演を行った。会場は満員となる282名の参加があり、管理栄養士、食文化の研究者など日頃から食品や栄養に関心を寄せる方々や高校生を含む若い人の姿が多くみられ、活発な質疑応答もあり盛況のうちに閉会した。

各講演会終了後に実施したアンケートによると、「京都大学の最先端の研究内容に触れることができたことが非常に有意義であった」「大学の成果を一般に公開する機会を増やしてもらいたい」などの感想や意見があり、本講演会は来年度以降も実施し、地域への京都大学の知の発信を継続していきたい。